

第3回県西地域活性化推進協議会 会議結果概要

(H26.10.7 15:10~16:40 於：足柄上合同庁舎 大会議室)

○ 開会（県西地域活性化担当部長）

○ 知事あいさつ

黒岩知事：本日は大変お忙しい中、県西地域活性化推進協議会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

私は最近、妙に県西づいておりまして、毎週、何度も来ているという状況になっていまして、私の中では、既に活性化しているという感じがしますが、けれども、この会議を通じて、更に更に本当の活性化につなげていきたいと考えているところであります。5月には「新たな観光の核づくり等促進交付金」ということをやりまして、皆様から熱意あるプレゼンテーションをいただいたところであります。やはり、地元の熱意がなければ、地元の盛り上がりがないと、こういった活性化は無理だという中で、本当に段々、私自身も手ごたえを感じることができるようになってまいりました。

本日は、この協議会の下に部会を設置しまして、具体的な取組みを進めていきたいと考えております。また、県西地域はこのポスターがこちらこちらにありますよね。「お前は未病だ」という非常に衝撃的なポスターではありますが、未病、未病と、この戦略エリアとしてアピールする確固たる拠点といたしまして、（仮称）未病いやしの里センターといったものも設置したいと考えておりまして、その具体策を、今日は皆様とともに、忌憚のない意見交換をしてまいりたいと考えておりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○ ワーキング（部会）の設置について、政策局長から説明（資料1）

○ 質疑・意見交換

大井町長：ウォーキングコースの検討は、当然やっていただきたいのですが、今は自転車愛好家が多いということで、こういうものもウォーキングコースの検討と併せて入れていただくと良いのではないかと考えています。

黒岩知事：その点につきましては、今ご説明いたしました、資料1の「（仮称）ウォーキングコース等ネットワーク化推進部会」の「等」の中にサイクリングコースも含まれているという認識でありました。その辺はぜひ、実現したいと考えています。

箱根町長：「（仮称）「未病を治す」ツーリズム推進部会」と「（仮称）ウォ

ーキングコース等ネットワーク化推進部会」で、前者は新たな観光資源の発掘・開発、後者では既存のコースもありますけれども、おそらく、これは2市8町を考えた場合に、色々な新たなコース、つながりも出てくると思いますけれども、お互いにこれは連携した、重なった部分が、ワーキンググループ同士で連携する部分があるかと思えますけれども、その辺はいかがでしょうか。

政策局長：今、御指摘のとおり連携する部分がたくさんございます。新たなツーリズムの部会は、「未病」をキーワードにツーリズムを作るので、観光関係や交通事業者など、民間の方にも入っていただくような検討をします。一方、ウォーキングコース等の部会は、行政側が整備することを中心に検討を進めていきたいと考えており、若干メンバーの違いはございますが、連携していく部分は連携してまいりたいと思います。

黒岩知事：他に御質問がないようでしたら、原案のとおり部会を設置させていただきたいと思えますが、よろしいでしょうか。

(満場一致で原案のとおり承認)

○ プロジェクトの取組状況等について、政策局長から説明（資料2～6）

○ 新たな観光の核づくり等促進交付金について、南足柄市副市長から説明

南足柄市副市長：南足柄市は、豊かな水や緑に代表される自然、また、金太郎や足柄千年古道を始めとする歴史的遺産や文化的遺産に恵まれ、誇れる地域資源が多くあります。「未病いやしの里」づくり事業、具体的には「楽しく歩く地域づくりプロジェクト」は、こうした地域資源に恵まれた南足柄市をステージに、スマートフォンを活用し、きめ細やかな観光、健康情報を提供するサービスです。事業の基本的な考え方としては、新しい街の歩き方を体験していただき、観光客と市民の健康満足度を上げることです。具体的には、スマートフォンの画面上に、周辺の商店や観光スポット情報を表示したり、史跡や文化財などの詳細説明を動画や音声などでご案内するものです。また、観光スポットをつなぎあわせて、ウォーキングコースを設定していきます。さらに、健康管理機能としては、ウォーキングをするごとに、利用者のウォーキングデータ、例えば距離や歩数を表示し、消費カロリー情報など、利用者の健康を促進する情報を提供します。採用するアプリについては、他の地域で実績のある既存のものを活用しますが、健康管理機能については、本市独自の機能として追加開発し、市を訪れた方や市民の健康づくりを推進していきます。また、観光施設、名所、文化財などのスポットごとに、アクセスされた日時、場所、地域、言語などの利用状況を分析して、今後のサービス

に役立てていきます。現在の事業の進捗状況ですけれども、来年早々の事業の契約を目指して、現在、観光地情報や商店等の市内事業者情報の収集・整理、ウォーキングコース、観光周遊コースの選定などを進めています。事業開始は来年4月1日を予定していますが、それまで事業のPRに努め、その意味からも2月下旬にはプレオープンしたいと考えています。

○ 新たな観光の核づくり等促進交付金について、真鶴町長から説明（資料7）

○ 新たな観光の核づくり等促進交付金について、湯河原町長から説明
（資料7）

○ 質疑・意見交換

渡辺委員（慶應義塾大学）：真鶴町長からのご発言で、魚が美味しい、非常にいいことだと思います。ただ、少し懸念すべきことは、最近、全国的に近海漁業が振るわないことです。その理由は、森が荒れて、流れてくる川が汚れるからだと思っています。私の患者さんでも、大分県の方で、非常に風光明媚な島なのですが、そういうところですら漁業が成り立たなくなっている。それは、高齢化によって山が荒れているためで、もちろん漁業そのものの振興も必要ですが、長期に見た場合、やはり国土の7割を占める森の保全が欠かせません。県西地域は特に森が豊かなので、森を豊かにしつつ魚が育つ、そういうコンセプトを入れてもらうといいかなと思いました。

真鶴町長：ご承知のとおり、国土で一番低い位置が海ですよ。そこを癒していくのに森が必要だと。森が豊かでないと、海が豊かでない。これはもう、わかっていることで、町にも半島があり、そこには、「お林」という江戸時代から植えた松やタブノキとかがあり、その森が海を守っている。森にはエネルギーもあるし、癒しもあるし、栄養もある。そういうところを守っていかなければいけないということで、それを森の駅として位置づけているんです。そこで未病を治していきたいということで、魚は全面的に出して、また、自然の林も出していくということで考えています。

黒岩知事：「魚付き林」というのはそういうことですよね。神奈川県では、山、川、海の連続性の中で考えていくという、そういう色々な動きをしておりますので、渡辺先生のご指摘のとおり、そういうことも大いに見せていきたいと思っています。

湯河原町長：未病いやしの里の駅として大変多くの施設の蓄積ができたという中で、これらのネットワーク化を考える中で、ここを回る側の立場で考えた時に、施設によっては既に、民間の施設などではフリーWi-Fiが整っている

施設もあるかと思いますが、まだ、そうでない施設もあるかと思うんですね。この辺に、県にお金を出して下さい、やっして下さいというのは今の時代にそぐわないと思うんですけれども、出来る限り何かそういう動機付けになるようなことは考えられないでしょうか。こうした施設が線につながっていくにも、フリーWi-Fiが積極的に提供されるようになると、今後の情報発信の面でも、取る側の人にとっても非常にいいのかなと思います。もう整っている所、そうじゃないところというのは今ここではわかりませんが、できれば、そういった全体像を見ていただいて、そういう動機付けになるような施策が今後考えられるかどうか、ご検討いただけないかというところです。

政策局長：フリーWi-Fiに関しては、東京オリンピックに向けていくつかの取組みが進んでおります。この一帯はFujisan Free Wi-Fiプロジェクトということで、協力店舗を増やそうという形でやっておりますし、また、行政施設に設置をする場合、経費を通信事業者側に負担させて設置させて、東京オリンピックの時には、それをすべての通信事業者でも利用可能になるような制度にするような国の動きも進んでいます。それは期待をしているところですし、神奈川県としては、交番はフリーWi-Fiにしていこうという取組みを進めています。1つ1つが大きな取組みにはまだなっていませんけれども、色々進み始めているということで、そこは県も推進していきたいと考えています。

真鶴町長：ウォーキング等の部会でサイクリングを検討する中で、例えば2市8町の施設のあるところから、例えば湯河原で自転車を借りて、真鶴で乗り捨てできる、そういうことでつなげていってもいいんじゃないかなと。真鶴から箱根、小田原、また上郡のほうへ行ってもいいんじゃないかなと。そういうサイクリングコースも考えられる。乗り捨てが出来るというのも1つの案じゃないかなと。

黒岩知事：それは面白いですね。これは非常にいいアイデアだと思いますね。ぜひ、採用させていただきたいと思います。

松田町長：未病チェックシートの件でお伺いします。チェックシートを使った後の管理について、個人で管理しながら未病を治していくのか、電子カルテのような形で、電子情報で蓄積して、どこに行っても自分の情報が分かる形になるのか。

政策局長：県西地域の事業では、未病チェックシートを使っていた後、簡単な小さいカードに、自分の証に合った生活パターンや、どんなものを食したらいいか書いたものをお配りする形です。そのほかに、今、県全体としては、未病センター構想を進めており、そこで住民の方が自分の状態をチェックし、最終的には電子化をして登録し、どのくらい未病の状態が良くなっ

たのか見ていただくような構想を持っています。まだ未病センターは出来ていませんが、それに向けて取り組んでおります。県西地域では、電子的なものというよりは、アナログが混じりますが、まずは取組みを始めたということでございます。

黒岩知事：今、お手元にお配りしました未病チェックシート証別アドバイスカードというものがありますが、これちょっと、渡辺先生、簡単に説明していただけますか。

渡辺委員（慶應義塾大学）：これ、ロゴを考えたのでは私ではなくて県ですが、漢方の言葉はとても難しいんですね。例えば、虚証は「虚」と付くと難しく聞こえてしまうが、こういった言葉ではなくてロゴで表現する。今度実施する「おんりーゆー」のモデル事業では、バイキング形式で食事を提供しているので、ロゴの表示を見て、こういったものを食べればいいのかということが分かるようになっていきます。未病チェックシートについては、先ほどの松田町長のご指摘があったように、自分の健康状態をクラウドに預けて、ログにしていくまでには至っておりませんので、今後の展開として考えていきたいと思っております。

松田町長：例えば、ポイントカードみたいな感じで、どこに行ってもピッとすればポイントが溜まる。そうすると、「里の駅」に行き、そこで何かするとポイントが付くような、何かしら特典があるような、ゲーム感覚でできないかなと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

渡辺委員（慶應義塾大学）：「おんりーゆー」では色々なアクティビティがあり、それも証別に分けていますが、例えば「気虚」証の人はこういうアクティビティをすればいいということを、県西地域で普及することもいいと思います。この未病チェックシートは大変ご好評いただいております。NHKの日曜日の「サキどり」という番組で取り上げていただき、10月26日に放映されます。

黒岩知事：これ、手にとって見ていただくと、イメージ、雰囲気がよく分かるのではないのでしょうか。それぞれ、皆さん、コンピュータで質問に答えていくと、あなたは、何とか証です、と出てくるわけですね。例えば、「気虚」証というと、エネルギーが不足している状態のことです。症状としては全身のだるさとか、食欲不振などが見られますので、気を補う、消耗しないことが重要です、と。食、運動、癒しという中で、どういう風にすればいいのか教えてください。お風呂の入り方では、「疲れるまで入浴すると気を消耗してしまい逆効果です」、食の場合には、「気を補う食材や温かい料理法を取り入れましょう。体を冷やす食材は気の生産を低下させますので注意しましょう」と書いてあります。こういう言葉で出るという、ゲーム感覚に近い感じで、楽しみながら、食だとか温泉だとか楽しんでいただこうという仕掛け

になっております。

それでは、議題3に参ります。（仮称）未病いやしの里センターについて、ご説明をお願いします。

○ （仮称）未病いやしの里センターについて、政策局長から説明（資料8）

黒岩知事：それでは、この件につきまして、ご意見、ご質問があればお願いします。

山北町長：地域コンシェルジュ機能の運営主体については、民間事業者と県が連携して行うとのことであるが、県がどの部分を行うかなど、もう少し細かい説明をお願いしたい。

また、「未病」が治ったということは、何をもって判断するのか説明願いたい。

政策局長：まず、一つ目の地域コンシェルジュの機能ですが、ここは場合によっては県が場所を借り上げて、そこに人を配置するイメージです。配置する人については、ある程度未病の関係や県西地域の地域資源を案内できる人材で、今年度から緊急雇用の基金を活用して育成を始めます。そうした人材を養成して、県のコーナーに配置をするということです。また、民間の方がこういう機能を担ってくれるということも考えられますので、どこもそういう機能を果たしてくれなければ県が自ら運営するという理屈です。それから、情報発信機能も同じく、ここは商売的に儲かる部分ではありませんので、スペースを作っていく必要があるのかなと思っています。そこに機器等の展示などを県がやっていくという形です。それから、どういう風に治ったかチェックするということについては、このコーナーにどんな機器を置くのかという部分にも関わっているわけですが、観光客の方には、1回まずここに立ち寄って、自分の健康状態をチェックして、県西地域の中に逗留して帰るときにまたこの施設に寄っていただき、もう一度チェックして数値を比べるというように、県西地域にいたらこれだけ体が良くなったんだなと見えるようにしていきたい。測定するデータとしては色々考えられますので、どれを取り入れるのかは今後の課題になるかなと思っています。

○ 質疑・意見交換

小田原箱根商工会議所会頭：大変わくわくするようなことなのですが、念のための質問です。この（仮称）未病いやしの里センターというのは、既存のものも含めて複数の施設をつないでいって、それらの全体コンセプトとしてセンターですよというとか、あるいはもっとバーチャルに色々なものをまとめ

てセンターですよということではなくて、具体のハードとして、一つの大きな施設を想定されているということによいでしょうか。

政策局長：おっしゃるとおりでございます、バーチャルに色々なものを色々なエリアにつなぎ合わせるということではなくて、一つに見える形が必要だと考えています。まさに、そこにお店が集まっていて、集客力があるものが必要です。ただ、やり方としてはいくつかあると考えています。既存の施設を利用する方法もあるでしょうし、広大な土地がありますので、ここにそういうものを建てたいということもあるでしょう。また、道の駅に非常に似た機能を持っているわけで、道の駅を設置したいと考えている市町もありますので、そういうものを発展させて、未病いやしの里センターを作り上げていくということも考えられます。候補がそうたくさんあるというわけではありませんけれども、候補ごとに、それぞれやり方が違うのではないかと考えているところです。

小田原箱根商工会議所会頭：特に、現時点では、県としては最低これくらいの規模であるとか、面積であるとか、そういったものはまだ無いということでしょうか。

政策局長：面積的な要件というのは、まだ持っておりません。ただ、県西地域に一箇所設定をして、それなりに観光客を呼び込む一番の道具にしていく部分がありますので、あまり小さいものでは、その役割が果たせないというふうに思います。

黒岩知事：これは民間からの提案ということが、非常に大きな要素になりますから、色々なものが来るということを期待しております。ここに書いてあるのは、我々の基本的な概念であります。これを具体的にどういう施設にしていくのかというのは、まさに民間のアイデアであります。例えば、私の中の勝手なイメージだと、大きなアウトレットモールがありますよね。例えば、そのようなアウトレットの新しい、未病いやしの里センターアウトレットのような感じで、色々なお店が入り、全部、未病関係というようなもの。レストランがあったり、食材を売っているところがあったり、セラピーとか色々なコーナーがあったり、そこに行けば未病関連のものが全部あるというようなことも、一つのアイデアです。その中に、色々なコンセプトが入ってくるということもあるんじゃないのかな。あとは本当に、民間からのアイデア募集ですから、具体的な話が欲しいですよ。この場所で、これくらいのもをこんなふうにして作るんだ。そのためには、どれくらいの集客を見込んで、どんな形で営業するんだ。そういうことも含めて、かなり大規模なイメージで考えて、期待をしているところです。

それから、未病いやしの里の駅というのがたくさんあるわけですから、そ

ういうものの上にどかんと、まさにセンターですから、顔としての、県西の顔になるようなものを期待しているところであります。

この健康未病産業創出ということも、おかげさまで神奈川県全体がエリアになりました、国家戦略特区の中にしっかりと明記されましたし、これを受けて、政府が閣議決定した健康・医療戦略の中にも、この健康未病産業という言葉がしっかり入りました。これからだんだんだんだん盛り上がってきます。神奈川県では先日、未病産業研究会というものも立ち上げました。これも、早くも想像以上に盛り上がっており、現時点で82社が参加しております。医療産業といいますと、非常に限られた、規制の強い中での産業であり、健康産業というところ、ある程度イメージが限られてきて、新たな展開が見えないですけれども、未病産業といったときに、まさに色々なものが入れるんだなということを感じていただいています。未病の戦略エリアにこの県西地域をしたいと思っており、未病産業研究会にどのような企業が参加しているのか、どのような団体が参加しているのかということも視野に入れながら、皆様のそれぞれの地域でアイデアというものを練っていただければなと思っています。

○ まとめ

黒岩知事：本日、色々なご提案をいただきましたけれども、事務局で整理した上で今後、具体的な進め方について、お示ししていきたいと思えます。

○ 閉会